

# 魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：小口 恵子

所属：世田谷区立桜小学校

記録日：28年2月20日

キーワード：自分に合った「学び」を支援する～通級指導学級での取り組み

「書き困難」「ADHD」「自分に合った学び方を知る」「在籍学級での活用」

## 【対象児の情報】

○学年 小学3年生

○障害名 書き困難 ADHD

○障害と困難の内容

- ・手先が不器用で道具の操作や運動面での困難さが見られ、書くことへの苦手意識が強い。
- ・知的には高く、聞いて理解する力も読んで理解する力があるため授業の内容は理解している。しかし書くことに困難さがあるため、書く課題には取り組まないことが多い。
- ・見通しをもつ力はあるが、注意が散漫で、衝動性もあり、思ったことをすぐに口に出したり、指示を待たずに行動したりする。

## 【活動目的】

○当初のねらい

- ①自分にあった学び方を知り、学習の基礎となる書く力を身につける。
- ②自分の言動を振り返り、相手を意識してわかりやすく伝える力をつける。  
(書くことに困難をかかえているが、本児の書けるようになりたいという気持ちを大切に、書くことへの支援と、書くことの代替え手段をもつことで本児の良さをいかし主体的に学ぶ姿勢を育てる支援の両面を目標にしていく。)

○実施期間

平成27年4月～平成28年2月

○実施者

小口 恵子

○実施者と対象児の関係

通級指導学級担任

## 【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

- ・聞いて理解する力や読んで理解する力はあるが、衝動性や不注意があり、書きの困難さも抱えているので、学習場面で力を発揮できない状況が続いている。
- ・失敗体験を積み重ねていることから、自分に自信がもてず学習意欲も低下している。
- ・自分の伝えたいことを一方的に話し、まわりの状況や相手の表情を気にしたり自分の言動を振り返ったりすることに注意が向いていない。

○活動の具体的内容

- 【1】通級指導学級で自分に合った学習を知るための活動
- 【2】相手を意識してわかりやすく伝えるための活動
- 【3】在籍学級での学びに広げるための活動

## ○対象児の事後の変化

### 【1】通級指導学級で自分に合った学習を知るための活動

#### ① 漢字学習

- ・書くことに自信がなく、失敗経験も多いため、間違いを指摘されたり、書き順の厳密性が求められたりするアプリに対しては、抵抗感が強かった。書き順、止めはねを正しく書くことをどこまで本児に要求するのかを考えた結果、過度な丁寧さを要求することは難しいので言葉の内容が伝わることをねらいにして漢字学習に取り組ませることにした。
- ・以上をふまえて、『ゆびドリル3年生』を使用した。このアプリは、なぞりながら練習ができること、間違えても消すことが容易なこと、間違えても指摘されないので安心して取り組めることなどが、本児の状況に適していた。また練習した中から「うまく書けた字」を選んで自分の漢字表を作れることも「きちんと書こう」という意欲を支えることが出来た。これだけではなかなか「覚える」というところまではいきにくい、「お手本をよく見て書く」「消す負担なしに大きな字が練習できる」「自分の書いた文字を確認して見比べることができる」といった良さがあり継続している。本児は「書く」ことは苦手であるが、「読む」ことは学年相当以上の力があるため、「読む」学習も取り入れることで自信をもつことができた。
- ・本児の書きの困難は、形を想起できないこと、手指の不器用さ、注意集中、空間認知の力が十分ではないことが原因であると考えられる。また、間違えた時に消しゴムで消してもう一度書くのは面倒くさい、面倒なことやうまくできないことを避けたいことも原因になっていると考えられる。本児の苦手な形の想起につながる練習ができるアプリとして『筆順辞典』を使用したところ、正しい漢字を選ぶことができるようになり進出漢字の学習に役立った。
- ・在籍校での漢字テストを通級の時間に持参し、iPadで写真を撮り、『おたよりBOX』に記録していった。「振り返る」「復習する」ことを意識するようになった。

この中から、上手に書けたと思うものを選んで

本児の振り返り  
・「橋」は惜しい間違い  
・「球」は正しく書いたつもりだった

進出漢字の学習

『ゆびどりる』

『おたよりBOX』

『筆順辞典』

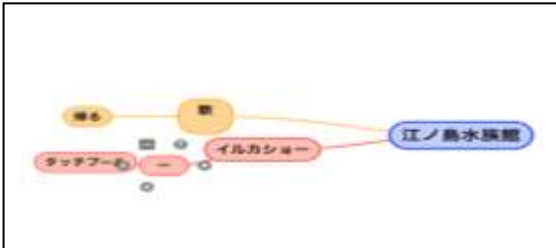
#### ② ローマ字入力練習

フリック入力、ひらがな入力、ローマ字入力を試したところ、ローマ字に興味を持った。将来を見据えてローマ字入力を学習することにした。ローマ字表を見ながら練習をしたり、『ローマ字ロボ』のアプリを使用して練習したりした。今では、ローマ字入力が速くなり、友達がノートを書くのと同じ速さで入力できるようになった。ローマ字表を見ることはなくなり、特殊音節もほとんど覚えている。



### ③ 作文や感想を書く、ノートテイク

- ・作文や感想を書く時に、思いや気づきはあるが、書きの困難のため、「おもしろかった」「すごかった」など一言しか感想を書けない、またはまったく書けない様子が見られた。『Simple Mind』にまとめる活動を行ったところ、ローマ字入力の習熟もあり、入力することで自分の考えを視覚的に整理することができ、表現する力を向上することに繋がった。



6月に通級指導学級の校外学習で 新江の島水族館に行った時の感想。  
ローマ字の学習を始めたばかりだった。



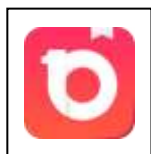
9月に在籍校で 図書館見学へ行った時の感想。  
ローマ字入力が習熟し、たくさん書けるようになった。



- ・みんなと同じペースでノートテイクをすることは難しく、答えがわかっているにもかかわらず書けない経験が積み重なり、学習意欲の低下が見られた。在籍校担任と連携をとり、通級指導の時間に在籍学級でのまとめ学習を『メモ』で入力したり、書きこみプリントを『タッチ&リード』を使用して入力したりした。それらを在籍校担任に印刷して提出したり、そのメモを使って発表したりした。在籍校担任にほめられ、学習意欲の向上が見られた。

### ④ 日記

- ・本校では、「自分の成長に気付く」「その日の活動を振り返る」ことをねらいとして平成25年度（本児が1年生入学から）から中休みと3時間目の間の5分間「日記の時間」を設けている。B4サイズに4日分記入でき、1日分は6年間書けるように6マスに分かれている本校のオリジナルの日記帳に書くことに全校で取り組んでいる。本児は書くことが苦手なことに加え、1マスが小さい、5分間で書くことができないという理由から取り組めていなかった。
- ・1学期は、通級の時間に『かめら絵日記』を使用して、写真に簡単な文章を入力した。2学期からは、自分の成長を振り返ることが本校で取り組んでいる日記活動のねらいなので、振り返ることができる、5分で書くことができるという理由から『10年日記』のアプリを使うことにした。現在は在籍学級で決められた時間に自分から取り組んでいる。



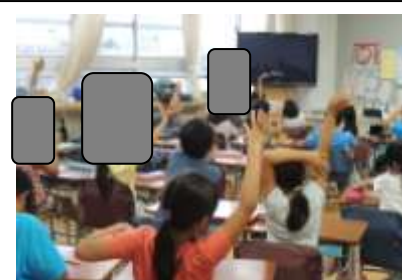
『10年日記』

## 【2】相手を意識してわかりやすく伝えるための活動

### ① プレゼンテーション

- ・本児は自分に興味があることにはとても集中し、追究することができる力をもっている。1学期末の保護者との面談で、本児の課題を整理し「自分の興味をもっていることを相手にわかりやすく伝える力」をつけるために夏休みの自由研究にiPadを使って取り組むことにした。
- ・本児と保護者が『Keynote』アプリを使って、夏休みに本児が興味のもった「宇宙」を題材にしてプレゼンテーションのスライドを作った。1学期にローマ字入力ができるようになっていたことで、文字の入力は全て自分ですることができ、保護者から「意欲的に取り組むことができた」と連絡があった。
- ・2学期になり通級の時間に練習、リハーサルをしてから、在籍学級で発表した。自分が作ったプレゼンテーションを「わかってほしい」という意識をもって練習することで、どうすれば伝わりやすいかを考えたり相談したりすることができた。相手意識をもって発表し友達からの反応を得たことで自分と相手の相互のコミュニケーションの大切さを実感し、そのためにはどうしたらよいかを考えることができた。

「Keynote」で作った夏休みの自由研究を在籍学級で発表した。感想、質問にたくさんの手が挙がった。



### ② 通級指導学級での小集団学習

自分の考えや意見をボードに書いて提示するとき、入力する時には『Keynote』使用し、絵を書く時には『黒板』を使用した。



## 【3】在籍学級での学びに広げるための活動

### ①事前の取り組み

「【1】通級指導学級で自分に合った学習を知るための活動」で記述したように通級指導学級での在籍学級でのノートテイクやプリント学習に活用し、その効果と必要性を本児も在籍学級担任も実感できたので、在籍学級への持ち込みを検討した。在籍学級担任、保護者の理解は得られたが、「自分だけタブレットを使うのはずるいと思う」「友達に何か言われなにか心配」と本児が言い、活用することに抵抗感を示した。2学期に全校にタブレットが導入され、在籍学級で全員が使用することになったのをきっかけに、在籍学級への持ち込みについて本児、母親、在籍学級担任、通級指導学級担任で話し合いをした。期待できる効果と在籍学級で使用するにあたっての約束を確認した。本児が心配していたクラスメートの理解については、本児が在籍学級担任に「話してほしい」と頼み、在籍学級担任から「みんなも苦手なことがあると思うけど、A君は字を書くのが苦手です。ノートや教科書の代わりにタブレットを使うことがあります」と本児の必要性について話してもらった。

### ②スタート時の支援

初めは在籍学級担任と事前に打ち合わせをし、進出漢字の学習、板書をノートテイク、プリント学習など

タブレットの活用が有効な学習の場面に、通級指導学級担任が付いて支援した。通級の時間に事前の練習や事後のまとめをしながら、本児が在籍学級で一人で活用できるスキルを身に付けることを目指して支援した。

### ③現在の状況

黒板を撮影して手元で書く、入力してノートテイク、連絡帳、日記、プリントをアプリで撮影して入力するなど自分で活用できることが増えた。困ったことがあると通級指導学級担任に使い方を聞くこともできている。クラスメートも本児が使用することを理解している。

11/27 ゴムの働きゴムの力で車を走らせよ  
髪の毛をむすぶのびる  
なにかをまとめる  
おもちゃフェスティバルでゴムを使った車、ギターアーチェリー  
しゃてき  
消しゴム  
ぼうし  
なにかをとめる  
伸ばしてはなすととぶ



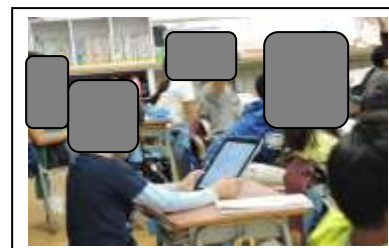
『メモ』理科のノートテイク

『瞬間日記』連絡帳

『Phonto』消防署の新聞を入力



通級指導学級担任が付いて学習



一人で学習

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ○主観的気づき

- ① タブレットを在籍学級で活用することで、授業への意欲の高まりや集中して学習できていると実感することができた。
- ② 自分の興味のあることを伝える学習を通して、「わかりやすく伝える」という視点をもつことができ、友達に認めてもらえたことで自己肯定感を感じる事ができた。

#### ○エビデンス

- ① ・「タブレットがあると集中できるんだ。ぼくには必要だと思う」（本児の言葉）
- ・「授業の参加がよくなり、みんなと同じペースで活動できることが増えた。タブレットがノートの代わりになり、本児が理解していることや考えていることがよくわかるようになった。評価もしやすくなった。」  
(在籍学級担任の言葉)

- ・「家庭でも自分から宿題に取り組むことが増えた。」(母親の言葉)
  - ・「学校公開で教室で(iPadを)使用する姿を見て、授業に取り組む様子が感じられました。これまでは机に伏せて何もしなかったことを思うと大進歩です。」(母親の連絡帳)
- ②・自由研究の発表をした時に「わかりやすい発表だった」「自分で(スライドを)作ったなんてすごい」などの感想を友達から言ってもらい、その日の日記に「僕は今日自由研究の発表をしました。みんなに褒められて嬉しかったです。100点 SSランク」と書いていた。
- ・『みんなが話を聞いてくれていろいろ質問してくれたのが嬉しかった』と突然話し始めました。自信がついたのか帰宅してから穏やかでした」(母親の連絡帳)

## ○その他エピソード

- ・12月に家庭でiPadを購入した。今は自分のiPadを学校に持ってきて使用している。そのことも本児の意欲を向上させた。自分のiPadを教室で使用するにあたり、在籍学級担任、保護者、通級指導学級担任で約束を申し合わせた。現在ではこの約束を守り使用することが出来ている。また、宿題や家庭学習にも活用している。
- ・2月に3年生を振り返っての作文を『Iライターズ』を使って入力した。

### 「アイパットと3年生」

僕は書くのが苦手です。ノートは全然書きませんでした。ただ、せいかつ教室がアイパットを貸してくれてノートが書けました。最初はいやだったけど、少しずつ少しずつ使えるようになりました。

ついに自分のものも買ってもらいました。

すこし不便なことはあるけど、とても便利で日記や連絡帳もアイパットで出来ます。

最初は入力がむずかしかったけど、今はだいぶ速くなりました。

四年生になっても使いたいです。



## 【今後に向けて】

- ・本児の「書けるようになりたい」という気持ちを大切に、書く支援と代替えとしての支援を今後も続けていく。
- ・本児の学び方の選択肢としてタブレットの活用が、必要な場面で継続できるように年度末の情報共有につなげていく。
- ・学年が上がり、担任が変わりクラス替えがあっても、タブレットの必要性をまわりに理解してもらえるように働きかける。大人が主導する環境調整だけでなく、本児が「自分の学び方」として納得と誇りをもつことで、自分でも周囲に求められることを目指す。